

科目名	心理学研究法特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代の心理学は「科学」です。科学は、仮説の提示と経験（実験や調査・観察）による検証に基づいて発展していくシステムです。心理学が科学であるためには、客観的な経験による結果を得られるかどうかにか依存します。心理学研究法は、客観的なデータを得るための実験計画および得られたデータの客観的な提示方法の学習を目的とします。【日本大学教育憲章ループリック：A-3】		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>心理学分野で論文執筆に必要な基本的なスキル（研究計画作成・データ分析・結果の記述）を習得することを目標とします。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 知識・解釈：客観性の基本であるデータの「信頼性」と「妥当性」の概念が説明できる。 2) 知識・解釈：2種の実験計画法（グループデザインと少数例の実験デザイン）の相違が説明できる。 3) 知識・解釈：得られたデータに対応した適切な統計法が使用できる。 4) 知識・解釈：グラフ作成等、具体的なデータの表現のため、Excel等が使用できる。 5) 知識・解釈：得られた結果の適切な報告（検定結果の文中での表現方法等）の仕方が説明できる。 6) 知識・解釈：論文執筆における書式（文献引用等）を適応できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioの全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行います。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>レポート作成を行うことにより目標スキルを獲得します。まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。各レポートの執筆には、それぞれ45時間以上の学習時間が必要です。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>統計基礎の学習、Excel等を用いた表計算およびグラフ作成スキル獲得、心理学研究執筆要項の学習等に48時間程度の準備学修時間を要します。全く表計算等の事前スキルがない場合は、さらに時間を要しますので、早めに学習を始めることが必要です。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：グループデザインの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループデザインの理論的背景の理解 2) 具体的な計画の作成方法と統計処理、および結果の表現方法の学習 <p>後期：少数例の実験デザインの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 少数例の実験デザインの理解 2) 同じ目的をもつ研究のグループデザインによる実験と少数例の実験デザインによる実験の考案 <p>修得すべきスキルが多岐にわたりますので、一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。前期の草稿は7月末日まで、後期は11月末日までに提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。最終稿は、前期：9月19日、後期：1月14日までに提出してください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75 %	<p>下記の点について評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) リポート提出システム（manaba）に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25 %	<ol style="list-style-type: none"> 1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	<p>レポート提出システムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p> <p>レポート提出システムに、紙ベースでは提示が難しいため、Web上で追加の留意点が書かれています。見落とさないように、レポートシステムに書かれている留意点を注意深くお読みください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫共著 『心理学研究法』（サイエンス社、2005年）ISBN:978-4-78-191108-3 2,200円＋税 岩淵千明編著 著者名： 『あなたもできるデータの処理と解析』（福村出版、2002年）ISBN: 978-4-57-120058-8 教材名： 2,600円＋税【紀伊園屋出版社からお取り寄せ（通常3日ー20日で発送）】 後藤宗理, 大野木裕明, 中深潤 編 『心理学マニュアル要因計画法』（北大路書房、2000年） ISBN:978-4-76-282196-7 1,500円＋税</p> <p>第1図書は、心理学の研究法にはどのようなものがあり、その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第2図書では、結果の分析に必要な統計的検定についてどのようなデータや実験計画のときは、どのような統計を利用するのかについて、フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第3図書は、分散分析法について概説している</p>
参考図書	<p>南風原朝和, 市川伸一, 下山晴彦編『心理学研究法入門調査・実験から実践まで』（東京大学出版、2001年）ISBN:978-4-13-012035-7 2,800円＋税 大野木裕明, 中津潤編著『心理学マニュアル研究法レッスン』（北大路書房、2002年）ISBN:978-4-76-282264-3 1,800円＋税 石村貞夫『SPSSによる分散分析と多重比較の手順』（東京図書、2002年）ISBN:978-4-48-902109-1 2,800円＋税 菅民郎『Excelで学ぶ統計解析入門』オーム社、1999年）ISBN:978-4-27-406546-02,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>心理学が科学的手法を用いていることを理解した上で、それぞれの方法論のもとになった考え方を理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。また、この課題は、修士論文作成に役に立つスキルを学習することを教育目標の一つとしていますので、その中の一つである心理学領域の論文の書式も学習するようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>測定の信頼性と妥当性、独立変数、従属変数、剰余変数および統制群の意味について具体的に述べよ。また、実験計画法についてまとめよ。 留意点：信頼性・妥当性の種類及びその検証方法、相関関係と因果関係の相違、剰余変数の統制の仕方、なぜ統制群が必要なのかについて説明して下さい。実験計画法では、分散（変動）、主効果、交互作用の意味を説明して下さい。また、要因計画、反復測定（対応のある・なし）の意味についても記述して下さい。なお、説明を加えるときは、出来るだけ具体例をあげながら説明して下さい。</p>
レポート課題 2	<p>t検定、1要因が繰り返しのある2要因分散分析法、および2×2のχ^2検定の手順について述べた後、それぞれの検定に対応した自分で考えた架空の実験データを利用して検定を行い、その結果を報告せよ。 留意点：統計ソフトを利用して計算して下さい。このとき、最終的な検定結果だけでなく、途中の計算結果も報告して下さい。また、架空の結果のグラフも必ず加え、文章で説明して下さい。t検定は、対応のあるt検定と、対応のないt検定の両方の事例を示して下さい。また、分散のあるグラフには、エラーバーをつけて下さい。エラーバーの長さは、$\pm 1SD$（標準偏差）にしてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： S・H・バーロー／M・ハーセン著高木俊一郎／佐久間徹監訳 教材名： 『一事例の実験デザイン「新装版」―ケーススタディの基本と応用―』（二瓶社、1997年） ISBN:978-4-93-119937-8 3,000円＋税</p> <p>本書は、一事例の研究の歴史の概説に始まり、一事例研究の科学的研究デザインをまとめたものである。それぞれの実験デザインの利点と問題点、および統計による検定法について紹介した一事例研究のバイブル的著書である。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社、1992年）ISBN: 978-4-93-119915-6 岩本隆茂, 川俣甲子夫著『シングル・ケース研究法―新しい実験計画法とその応用 Keiso Psychology』（動草書房、1990年）ISBN:978-4-32-610083-5 4,500円＋税</p>
履修上のポイント	<p>履修上のポイント 心理学に限らず、大標本を用いた研究ができないケースが少なからずあります。この様な場合、少数例のデータを利用して、いかに科学的に研究するのか？どのような根拠にもとづいて少数例の実験デザインは考案されたのかを理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>少数例を用いた実験デザインにはどのようなものがあるかまとめよ。 留意点：グループデザインとの基本的な考え方の相違および、少数例の実験デザインの歴史的発展について述べた後、各デザインについて説明してください。このとき、それぞれのデザインの利点と問題点を指摘してください。また、ベースラインおよび繰り返し測定の意義、さらに、独立変数導入時に一変数導入が基本であることと理由についても記述してください。</p>
レポート課題 2	<p>ある技能に対する訓練方法Aの効果について、実験的に検討したい。このとき、特別な訓練をしなくても時間経過に伴ってその技能はある程度向上し、また、一度訓練されると、元の低いレベルに戻ることはないことが知られている。この様な場合、どのような実験計画を立てるか、グループデザインと、少数例を用いた実験デザインの両方の計画を考案せよ。 留意点：両デザインの違いが分かるように説明し、出来るだけ具体的な実験例をあげて下さい。また、架空の実験結果を、両デザインともグラフと文章で表現して下さい。グラフは、テキストのグラフに準拠して下さい。また、課題の実験では、グループデザインにおける統計的検定および少数例の検定が可能ですので、検定も加えて下さい。</p>